



アペルト13

高橋治希 園林

2020年12月19日(土)～  
2021年5月9日(日)

生物の生滅を表現した「園林」空間に  
構築された「風景」を巡る  
高橋治希の注目の個展

展覧会名	アペルト13 高橋治希 園林
会期	2020年12月19日(土)～2021年5月9日(日)
開場時間	10:00～18:00(金・土曜日は20:00まで、1月2日・3日は17:00まで)
休場日	月曜日(ただし2021年1月11日、5月3日は開場)、 12月29日～2021年1月1日、1月12日、5月6日
会場	金沢21世紀美術館 長期インсталレーションルーム
料金	無料
主催	金沢21世紀美術館[公益財団法人金沢芸術創造財団]
協賛	VARIVAS
助成	文化庁(令和2年度優れた現代美術の国際発信促進事業) 
お問合せ	金沢21世紀美術館 TEL076-220-2800

本資料に関するお問合せ

金沢21世紀美術館  
事業担当: 高橋律子 広報担当: 齊藤千絵、石川聡子、落合博晃  
〒920-8509 金沢市広坂1-2-1  
TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2802  
<https://www.kanazawa21.jp> E-mail: [press@kanazawa21.jp](mailto:press@kanazawa21.jp)



## 展覧会について

人は「庭園」を巡るとき、何を思うのでしょうか。一人たたくむときも、親しい人と会話しながら楽しむときも、何かしら気持ちを切り替える場所として、庭園はあるのではないのでしょうか。高橋治希（1971-）は、美術館の空間に庭園としての「園」を作り出します。一貫して、風景や自然をテーマにインスタレーション作品を制作してきた高橋が、社会に対して声高に叫ぶ作品ではなく、もっと個人的な作品との出会いを生み出したいと行き着いたのが「園林」でした。園林とは、中国の庭を総称する言葉です。園林は、人がゆっくりと巡り歩くにしたがって、さまざまな風景と出会う構造を持っています。一つひとつの風景に思想があり、人生のあらゆる場面が凝縮されています。自分自身の歩みによって、それぞれの人生が心に映し出され、人と宇宙がつながります。

金沢21世紀美術館に作り出される園林には、水があり、山があり、光があり、闇があります。何種にも及ぶ野草は、私たちが共に生きている植物たちです。光を透過する白磁は、触れれば砕けてしまうもろさも持っていますが、大切に扱えばそのままの形で永遠に残り続けます。硬質さともろさを併せ持つ風景から、人生のはかなさや、消えてはまた巡る記憶の数々がより一層強く意識されるに違いありません。

園林は、自然を素材としていますが、決して自然ではありません。複雑な思想を映し出し、見る人を想定しながら造形される「作品」です。高橋は、西洋の美術史の文脈から意識的に離れ、見る人それぞれの精神性を映し出す園林を展示空間に創造し、東洋的なインスタレーション作品の在り方の追究を試みます。



《sea vine-波打ち際にて-》2019 瀬戸内国際芸術祭2019、香川  
Photo: KIOKU Keizo

## 展覧会の特徴

## 工芸のまち金沢が育んだ作家性

## —伝統的な素材で現代美術の造形表現に挑む

出身地金沢を制作拠点とする高橋治希は、磁器という古くから続く素材を用い、九谷焼や出石焼<sup>いずし</sup>の手法を取り入れつつも、工芸の文脈から離れ、インスタレーション作品としての造形表現を追求しています。作品の特徴である、花やつるを細密にかたどった硬質で透光性を持つ白磁には、釉薬によってみずみずしい生物が描かれ、モチーフである自然万物が内包する堅ろうさとはかなさの両義性を余すところなく表現しています。

## 東洋の「園林」思想を背景とした空間づくり

本展のタイトルにもある「園林」とは、中国に古来より伝わる庭園のことをいいます。高橋の空間づくりは、自然界において生滅する命や精神の有り様が体现される東洋の園林思想に深く影響を受けています。鑑賞者は、作品と一体になり園林と化した展示空間を回遊し、そこに想像される水、山、光、闇といった光景を各々の心象風景と重ね合わせることで、さらなるイメージや記憶の深化に誘われることでしょう。

## 風景の構築—刻まれては風化する、有限の風景をつないでいく

瀬戸内国際芸術祭、越後妻有アートトリエンナーレなど数多くの芸術祭への参加を通じて、その土地固有の文化や風土により生まれ、刻まれては風化していく風景の記憶と溶け合った作品を生み出し続けています。展示空間に構築された風景は、生滅を繰り返す自然の成り立ちさながら、有限性ゆえの美しさを内包しています。地域に根差した作家活動を通し、過去・現在・未来をつなぐ造形表現の在り方を問い続ける作家の最新作を展示します。

### 作家プロフィール

#### 高橋治希（たかはし はるき）

1971年石川県金沢市生まれ、同地在住。  
東京藝術大学にて油画を専攻し、土を用いたインスタレーション作品や、フィールドワークに基づく風景をつなぐプロジェクトなどを展開してきたが、2002年に出身である金沢に戻ってきたことをきっかけに、九谷焼を用いたインスタレーションを開始する。園林(庭園)に東洋的インスタレーションの可能性を見だし、庭園の持つ空間思想とインスタレーションの関係についてのリサーチと作品制作を進めている。近年は瀬戸内国際芸術祭、越後妻有アートトリエンナーレ、北アルプス国際芸術祭に出品するなど、一般家屋の室内空間に風景を生み出す作品を展開している。また、金沢駅西広場地下道の庭園やハイアットハウス金沢、ソラリア西鉄ホテルソウル明洞など、建築とのコミッションワークも多く手掛けている。



### 作家ステイトメント

《園林》は中国の庭である「園林」の構造をなぞらえています。日本の庭と中国の園林の大きな違いは、庭が外部と緩やかにつながっていくのに対し、園林は一般に高くそびえた壁に囲まれた一つの異時空間として作られていることです。今回展示室のホワイトキューブの空間はまさに一つの異時空間も捉えることができ、園林の思想と重なり合います。皆さんに、磁器でつくられたこの園林を通じて、思想的な空間を体験していただきたいと考えています。

窓の外からかいま見る「漏景」<sup>るうけい</sup>、そして展示室の狭い入り口をくぐると「障景」<sup>しょうけい</sup>と呼ばれる前にせり出すような風景が波の形で現れます。そこから奥に行くにしたがい、水とも山とも区別がつかない空間を越えて、高山植物で作られた山に着く頃は、その先に天を見つめることとなります。目線がどんどん移動することで、空間と身体が一体化し、最終的に天とつながります。それは身体の中に入り込むような感覚であり、トンネルを抜けると世界が広がる瓢箪<sup>ひょうたん</sup>のような世界でもあります。園林は狭いところに入ったり登ったりする身体感覚と空間が共鳴しながら心情を生み出し投影するものです。

また、細部に目を凝らせば、海辺や高山植物まで日本で見ることのできる幾多の草花が咲いています。草花のなかに虫やカエルたちが葉のなかから滲み出るように、また溶け込むように描いています。草花や生き物たちは《園林》の空間のなかで、生命が生まれ、また消えゆくことを示しています。ぜひ、ゆっくりと歩き、視線を巡らせ、作品を感じていただくことで、みなさんの心情と重なることを期待しています。

## 関連プログラム

**ワークショップ**

磁器で手のひらサイズの花を数輪つくるワークショップです。中国・徳化窯の練花技法を応用して作ります。※各日、同内容です

講師：高橋治希

日時：2021年3月21日（日）10:00-15:00、2021年4月17日（土）10:00-15:00

会場：金沢21世紀美術館 プロジェクト工房

定員：12名（各日） ※中学生以上

参加費：5,000円（材料費・焼成費込み）

申込方法：WEBサイトにて3月1日（月）10:00より申込受付開始（先着順）

※美術館にて後日作品をお渡しします。発送の場合は別途送料がかかります。

**アーティストトーク 「光の庭へ」**

日時：2021年3月27日（土）14:00-15:30

会場：金沢21世紀美術館 レクチャーホール

定員：40名

料金：無料

申込方法：WEBサイトにて3月1日（月）10:00より申込受付開始（先着順）

※アーティストトークにあわせて3月26日（金）・27日（土）・28日（日）の3日間限定で金沢21世紀美術館山宇亭にて特別展示を行います。詳細が決まり次第、WEBサイトにてご案内します。

「アペルト」  
シリーズとは

「アペルト」は、若手作家を中心に個展形式で紹介する展覧会のシリーズです。

金沢21世紀美術館は世界の「現在」とともに生きる美術館として、今まさに起こりつつある新しい動向に目を向けています。作家とキュレーターが作品発表の機会を共に創出し、未来の創造への橋渡しをします。国籍や表現方法を問わず、これまで美術館での個展や主要なグループ展への参加経験は少ないが、個展開催に十分な制作意欲を持ち、アペルト実施以後のさらなる飛躍が期待できる作家を紹介していくものです。

※「アペルト (aperto)」は、イタリア語で『開くこと』の意味。

## 広報用画像

画像1~7を広報用にご提供いたします。ご希望の方は下記をお読みの上、広報室へお申し込みください。画像お申し込みフォーム ▶ [https://www.kanazawa21.jp/form/press\\_image/](https://www.kanazawa21.jp/form/press_image/)

## [使用条件]

※トリミングはご遠慮ください。作品が切れたりキャプション等の文字が画像にかぶったりしないよう、レイアウトにご配慮ください。

※情報確認のため、お手数ですが校正紙を広報室へお送りください。

※アーカイブのため、後日、掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。以上、ご理解・ご協力のほど、何とぞよろしくお願いいたします。



《春驟雨》2011「COLORS OF SEASONS」  
京都芸術センター、京都



《(in the vine)》2011  
金沢アートギャラリー、石川



《蔓蔓一夜の手触り〜》2015  
大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2015、新潟



《高瀬川庭園》2017  
北アルプス国際芸術祭 2017、長野



《sea vine-波打ち際にて-》2019  
瀬戸内国際芸術祭2019、香川